

犬丸 愨

いぬまる・すなお

広島大学教授、福山女子短期大学学長(初代)

経 歴

生:明治32年(1899年)9月14日、福山市金江町平田生まれ

没:昭和63年(1988年)6月18日、享年88歳

大正9年(1920年)	20歳	広島県立福山中学校(誠之館)卒業
大正13年(1924年)3月	24歳	広島高等師範学校卒業 [理科第3部(博・地)]
昭和7年(1932年)3月	32歳	広島文理科大学卒業 [第1期生、生物学科植物学専攻]
昭和7年(1932年)	32歳	大阪府立八尾高等女学校教諭
—	—	宮崎県立都城中学校教諭
—	—	岡山県立高梨中学校教諭
昭和12年(1937年)	37歳	広島高等師範学校教授
昭和20年(1945年)11月20日	46歳	京都帝国大学理学博士
昭和24年(1949年)夏	49歳	採集旅行の疲れから健康を害し療養生活に入る
昭和27年(1952年)4月～38年(1963年)3月	52～63歳	広島大学水畜産学部教授
昭和38年(1963年)～44年(1969年)	63～69歳	福山女子短期大学(現福山市立女子短期大学)学長
昭和38年(1963年)5月14日	63歳	広島大学水畜産学部名誉教授
昭和44年(1969年)11月3日	69歳	勲三等瑞宝章
昭和57年(1982年)5月23日	82歳	植物分類地理学会(現日本植物分類学会)名誉会員

還暦の集いにおける挨拶(一部)

犬丸 愨 昭和36年2月13日

還暦に当って60年の過去をたどり、いささかご参考に供します。

高等小学校(精華)3年生になった16歳の私は、卒業したら農業の時間に習った本をもとにして、良い百姓になろうと夢を抱いていた。

ところが、村の村長をしている医者が父にすすめたので、中学に行くことになった。

福山中学(現、誠之館高等学校)には、大てい高等小学校から入学していた。僅か1ヶ月の入試準備で5倍の競争率を突破し得たのは、高等小学校へ3年も通ったおかげでしょうが、ここから私の勉学が始まりました。

松永駅まで1里余の道を、木綿の小倉服で歩いて出ている。

中学生生活5年が終り、高等師範学校へ行った。

私が教師になったのは、私の性格でもあろうが、当時の私の周囲は純朴で、現在よりもっと先生を尊敬していたからです。

高師を出てから5年間に抑えのきく先生は、若い教師の私に非常な魅力をあたえた。

その英語の先生の学力が深く生徒に影響している事実をつきつめた。

そこで学力をつけることが立派な教師たる所以だと悟り、広島文理科大学へ入学した。

大学へ入学してドイツ語・ラテン語に苦勞したが、ゆっくりしては卒論に間に合わないの
で、独学で急ピッチで進めた。

3年では自分の選んだ卒論テーマ「地衣学」も学内に専門の先生がなく、ひとりで文献をたよりに暗中模索の如くにして進んだ。

何もかも独学のかたちですから、その進歩は遅々としているが、やれば何時かはものになるものです。

大学卒業時、講師として大学に残るよう話があつたが、経済的理由で辞退いたし、大阪の高等女学校に奉職した。

毎土曜、日曜は必ず京都大学へ研究に通った。

平日は夕食後も学校の標本室で過し、家は唯々寝る所だけと云う生活が5年間続きました。

こうして突然母校の招きを受けて高等師範の教授として再び広島の土をふみました。

これからが私の本当の学者生活が始つたのです。

やはり夜12時頃迄学校の2階の私の研究室で過すのが常でした。

原爆は一瞬にして、10年間北は北海道から南は台湾まで、私の採集した3万点と云う貴重な標本と貴重なバックナンバーとが灰となりました。

しかし幸せなことに、その前、当時の京都帝国大学に提出していた学位論文でその年にパスしました。

しかしこれからと云うのに標本・文献・顕微鏡もなくして全く茫然としました。

昭和24年(1949年)の夏、北アルプス・鳥海山・富士山と引続き、強行軍の採集をして帰宅後倒れたのです。

闘病生活で漸く健康と云うレッテルを貼られました。

思えば終戦後の15年間は原爆の痛手と、病気とで実に研究上大きな損をしました。

おそまきながらこれから大いに勉強したいと思っています。

当地では犬丸先生は苔博士と呼ばれているように、苔については世界的な学者であります。 (出典

犬丸先生について 秋田県 佐藤淳

◇昭和20年(1945年)に理学博士の学位を取得したときの学位論文の題名

“*Monographia Peltigeracearum Japonicarum*”(日本産ツメゴケ科地衣類のモノグラフ)

コケ類とは蘚苔類(本当のコケ)と地衣類(コケでないコケ)の総称です。

当時、広島文理科大学には蘚苔類の専門家である堀川芳雄先生がおり、犬丸先生はコケでないコケ、地衣類の専門家として広島高等師範学校に赴任しました。

犬丸先生は地衣類、特にツメゴケ科(ツメゴケ属、ウラムゴケ属)を中心とした地衣類について精力的に研究し、その成果を昭和14年(1939年)ごろから植物分類地理学会(先生は昭和7年(1932年)、学会発足時からの会員でした。)の学会誌である『植物分類、地理』にたびたび発表していましたが、その研究の集大成が上記の学位論文です。

残念なことに、広島への原爆投下によって貴重な標本と文献が灰燼に帰し、加えて昭和24年(1949年)夏、採集旅行の疲れから健康を害し、不本意ながら地衣類研究の第一線から身を引くことになってしまいました。

それでも地衣類や後輩の研究者への思い入れは強く、昭和58年(1983年)5月、日本海中部地震が発生したとき、被災地にある秋田大学に勤める地衣類研究者、井上正鉄博士のもとに最初に届いたお見舞い状は犬丸先生からのものでした。

たぶん地震当日にお書きになったものだったと思います。

◇「日本植物分類学会名誉会員」

犬丸先生は、昭和57年(1982年)、「植物分類地理学会」の名誉会員に推薦され、総会で承認されております。

その後、平成13年(2001年)5月、植物分類地理学会は(旧)日本植物分類学会と統合、(新)日本植物分類学会となりました。

犬丸先生がご存命のころは、日本植物分類学会はまだ名誉会員を一人も選出しておりませんでした。(出典2)

出典1:『福山市金江町誌』、526頁、金江町誌発行委員会編刊、平成4年3月1日

出典2:「犬丸先生について」、佐藤淳氏(秋田県)、ご教示ありがとうございます

出典3:『尚志会(広大の同窓会)会員名簿(年次別)』

関連情報1:『生死の火 広島大学原爆被爆誌』、252頁、「記憶をたどって」、犬丸愨、広島大学原爆死没者慰霊行事委員会編刊、1975年

関連情報2:『福山女子短期大学第3回卒業記念アルバム』、福山女子短期大学編刊、昭和42年3月

2007年7月13日追加●2007年7月17日更新:経歴●2008年2月12日更新:経歴・本文●2008年3月17日更新:氏名●
2008年3月18日更新:経歴・本文・出典●2008年3月19日更新:経歴●2008年3月24日更新:経歴・出典・関連情報●20
08年9月10日更新:写真●2008年9月16日更新:経歴●